

なしの未来を明るくしたい

千葉県船橋市立海神南小学校 五年 内海 結麻

私は、なしが好きです。私の住む千葉県は、栽培面積、収穫量ともに日本一を誇ります。

私の家は毎年、近所のなしの直売所になしを買いに行きます。市販のなしと違って、大きくて凄く甘いです。たくさん買ってもすぐなくなってしまうし、親戚や周りの人におすそ分けすると、とても喜ばれます。

千葉県は海に面していて、年間の平均気温が十二度から十五度と、比較的暖かい気候です。そのため、市販のなしが八月の中ごろから出荷されるのに比べて、近所のなしの直売所では、七月の終わり頃から大きいなしが売っています。このような気温の条件がそろると、成熟が早まり、品質の高い甘いなしがたくさん実るそうです。こんなにいい条件で育てられているなしを毎年食べられるなんて、千葉県はすごくいい土地だと感じました。

しかし、そんないい土地でも、自然の動きには逆らえません。近年ずっと話題になっている「地球温暖化」のえいきょうです。なしなどの果樹栽培は、毎年同じ木から収穫するため、温暖化が進むと開花が早まります。でも、問題はそこだけではありません。なしは、冬眠状態のとき、一定の低温をため込み続けることで、春になるとうまく冬眠を解除するしくみです。ところが、冬が例年より暖かいので、低温をため込むことをしません。そのため春になっても花が咲かない、という現象がすでに起きています。

こうした問題を解決する方法の一つに、「育種」が提案されています。台湾などにより暑い気候で栽培される品種とうまくかけ合わせることで、少ない低温とおいしさを両立させた品種の開発が行われています。他にも、冬眠を人為的に解除させる薬剤の利用なども検討されているそうです。

こんなに美味しいなしが食べられなくなるのは嫌なので、自分にできることを考えて、なしの未来のために努力していきたいです。